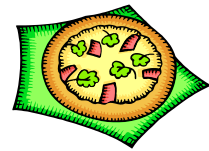


# 納豆、甘納豆、ピツァ



永田 円了

自分がどんな意識をもって人間関係を生きているのか。にちゃにちゃの納豆型なのか、また逆に、俺は、私は、のエゴをベースにした甘納豆型なのか、それとも多種の素材が“ つながって ”独特な味わいを出すピツァ型意識なのか、共に考えてみよう。

## 納豆型人間関係



一言でいえば“ くっつき ”意識で構成された関係である。人と同じことをしている限りは、居心地のいい関係が保てる。しかし一端人と違うことを始めると、この集団では村八分となる。個性が埋没する悲しき環境である。

## 甘納豆型関係

人と同じ事はできない。俺は俺のやり方で、と自分自身を最優先させる世界。力のある人はどんどん伸びるが、最後には燃え尽きてしまい、次の代が育たない。“ 私の考え ” “ 私の感情 ” “ 私の経験 ” のみが大手をふって歩く。

## ピツァ型人間関係

ピツァは、生地の上にいるんな素材をのせて焼く。個性豊かな素材がちょっと溶け合い、ピツァ独特な味わいを出す。こんな人間関係があったら、という思いを込めて命名した。



ラルフ・エマソン  
Ralph Waldo  
Emerson 1803-82

孤立は使いものにならない。でもただくっついていてだけの関係は、もっと悪い 致命傷だ！  
（“Solitude is impractical and yet society is fatal.”）

人生とは、自分を見つけることではない。自分をクリエイト(創造)するために存在する。  
（“Life isn't about finding yourself. Life is about creating yourself.”）

人生の深みは、ただ長生きした、ということで辿り着くことはできない。何回ハッとすることがあったかで決まる。（“Life is not measured by the number of breaths we take, but by the moments that take our breath away.”）

よく笑い、人から感謝され、家族の愛を感じ、ただ一人の人でもいいから、あなたに心から、ありがとう、と言ってくれたとき、あなたの人生は成功したと言えるのです。（“To laugh often and much; to win the respect of intelligent people and the affection of children ... to leave the world a better place....to know even one life has breathed easier because you have lived. This is to have succeeded.”）

### < 事 例 >

NHK スペシャル『無縁社会』1/31/2010、高野藤常さん、社会との接点を失う  
たった一人の反乱「食品偽装」を告発した男」 NHK 12/1/2009  
黒澤明監督『乱』 秀虎、家督を嫡男太郎に譲る、甘納豆意識が自己崩壊する  
米映画『ポストマン』 恐れが仕切る納豆集団、“つながり”意識が変容する自己へ  
NHK プロフェッショナル / 山田智敏(39才) 山岳警備、第三のみちを生きる  
浅田真央 / 銀メダル、でも憂鬱な表情、このジャンプで9点もらえらるとおもった  
鈴木明子 / 8位、でもこの生き生きとした姿はなぜ  
兵士達の歌う「花はどこへ行った」 Where have all the flowers gone?  
カタリーナ・ビット / リレハンメル大会(1994年)感動の氷上演技  
マリーネ・ディートリッヒ / ドイツ語で「花はどこへ行った」を歌う

